

令和 6 年度 年間授業計画

東京都立北豊島工科高等学校 定時制課程

科 目 名		学年	単位	総授業時数	必修・選択
現代文 B		4	2	70	必修
指導目標	近代以降のさまざまな文章を的確に理解させること、また適切に表現する能力を高め、総合的な国語力の向上を図るとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深めさせる。 社会人になるための公的文章や自己表現が出来た文章が書けるようになる。 漢字能力検定や日本語検定等の資格取得に挑戦させる。				
授業内容	第一学期	第一学期授業時数計＜24＞ 1 随想・・・8時間 「どんな人になりたかったか」 2 評論・・・8時間 「言葉は変わるもの、されど伝承すべきもの」 3 評論・・・8時間 「ひかりのどけき春の日に」			
		（達成目標）筆者の主張をおさえたうえで、自らの考えを言葉で表現し、発信できる。 登場人物の表情の変化等を読み取るなどし、自らの人生に対する考えの深化につなげる。			
	第二学期	第二学期授業時数計＜24＞ 4 随想・・・8時間 「ももこのいきもの図鑑」 5 評論・・・8時間 「ゴリラの思いやり」 6 小説・・・8時間 「こころ」			
		（達成目標）筆者特有のユニークでユーモアのある文章を読み、筆者の豊かな発想や独自の視点を理解する。評論の理解を通して、人間、社会、自然等について自分の考えを深めたり発展させたりする。小説では、全体の構成、人物造形、背景等を一つひとつ理解し、登場人物の言動や心情を読み取ることで、ものの見方や考え方を深める。			
	第三学期	第三学期授業時数計＜18＞ 7 評論・・・9時間 「ウサギの耳はなぜ長い」 8 評論・・・9時間 「鉄を削る」			
		（達成目標）具体と抽象の照合をしながら読み取り、豊富な具体例を出しながら文章を展開したり、一般論を転回させたりする手法を理解する。また自然科学への興味関心を持ち、積極的に読書に親しむ姿勢を構築する。			
評価方法	定期考査に平常点を加味して総合的に評価する。				
教科書	大修館書店 新編現代文 B				

令和6年度 年間授業計画

東京都立北豊島工科高等学校 定時制課程

教科・科目名			学年	単位	総授業時数		必修・選択	教科担当者
英語表現Ⅰ			4	2	70		必修	小田桐 のり子
指導目標			文法事項についてその構造を理解し、それらが使われた文章や音声を通して、読む・聞く能力の向上を図る。 。また、ペアワークやグループワークなどを通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、理解した文法事項を実際に用いる機会を用意し、話す・聞く能力の向上を図る。					
授業内容	第一学期		第一学期授業時数計＜28時間＞ ・ Bridge Lesson 1～3（英文法の復習）…4時間 ・ Lesson 1～8…16時間 ・ Your Turn, Step Up…8時間					
			（達成目標） ・ 動詞・過去形・未来形・現在完了形、助動詞について理解し、それらを用いて実際に話したり書いたりできる。 ・ 本文の英語を参考にして、自分のことについて英語で表現することができる。					
	第二学期		第二学期授業時数計＜32時間＞ ・ Lesson 9～16…24時間 ・ Your Turn, Step Up…8時間					
			（達成目標） ・ 受け身・不定詞・動名詞・関係詞について理解し、それらを用いて実際に話したり、書いたりできる。 ・ 本文の英語を参考にして、様々な表現を用いて、自分のことについて英語で表現することができる。					
	第三学期		第三学期授業時数計＜10時間＞ ・ Lesson 17～20…6時間 ・ Your Turn, Step Up…4時間					
			（達成目標） ・ 比較・知覚/使役動詞・仮定法について理解し、それらを用いて実際に話したり、書いたりできる。 ・ 本文の英語参考にして、自身や身の回りのことについて、比較的長い英語で表現することができる。					
評価方法		Your Turn への取り組み方、スピーチ・プレゼンテーション等のパフォーマンステスト、計5回の定期テスト、授業内小テストをもとに評価を行う。また、授業プリント・長期休業中課題等の提出物、授業にのぞむ姿勢など平常点も加味して総合的に評価する。						
教科書		NEW FAVORITE English ExpressionⅠ（東京書籍）						
教材		教科書、プリント等						

令和 6 年度 年間授業計画

東京都立北豊島工科高等学校 定時制課程

教科・科目名		学年	単位	総授業時数	必修・選択	教科担当者
課題研究		4	3	105	必修	竹谷・渡邊 佐藤・阿部
指導目	工業の各分野に関する知識と技能を自発的・創造的に取り組む姿勢を実際の作業を通して習得させる。自己実現のために問題解決に対応できる能力、態度を育成し、幅広い進路希望を具現化させる。					
授業内容	第一学期	第一学期授業時数計<30> 各生徒が課題と目標を設定し、その課題に沿って小さな目標をクリアしていくようにする。 機械加工、原動機、NC 工作機械、アクセサリ―鑄芸、資格取得 創意工夫した作品を製作する。それに伴い必要な調査、研究を行う。 実習中は経過を記録に残すため写真や動画を撮影する。				
		(達成目標) 生徒が、工業に関する課題を解決する際に、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良い方法で問題を解決する資質や能力を育てられるように指導、助言する。				
	第二学期	第二学期授業時数計<42> 各生徒が課題と目標を設定し、その課題に沿って小さな目標をクリアしていくようにする。 機械加工、原動機、NC 工作機械、アクセサリ―鑄芸、資格取得 創意工夫した作品を製作する。それに伴い必要な調査、研究を行う。 学期末は「課題研究発表会」の準備に取り掛かり、まとめの作業に入る。				
		(達成目標) 生徒が、工業に関する課題を解決する際に、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良い方法で問題を解決する資質や能力を育てられるように指導、助言する。				
	第三学期	第三学期授業時数計<27> 「課題研究発表会」実施				
		(達成目標) 生徒が、工業に関する課題を解決する際に、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良い方法で問題を解決する資質や能力を育てられるように指導、助言する。				
	評価方法	以下に示す点を基準にして、生徒の状況を総合的に判断して評価する。 1. 出欠の状況 2. 授業中の態度 3. 提出物の内容および提出状況 4. 目標への到達度 5. 興味・関心の程度 6. 作品の完成度				
	教科書	なし				

教材	なし
----	----

令和 6 年度 年間授業計画

東京都立北豊島工科高等学校 定時制課程

教科・科目名		学年	単位	総授業時数	必修・選択	教科担当者
機械工作		4	2	70	必修	潮田 正彦
指導目標	<p>1. 機械工作について機械材料の加工性や工作法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>2. 機械工作に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。</p> <p>3. 工業生産における適切な機械材料の加工や工作する力の向上を目指して自ら学び、情報技術や環境技術を活用した製造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>					
授業内容	第 1 学期	<p>第一学期授業時数計＜20＞</p> <p>1. 製品のつくり</p> <p>2. 製品のできるまで</p> <p>3. 機械材料</p> <p>4. 機械的性質とその測定</p> <p>5. 金属の結晶構造</p> <p>6. 鉄鋼材料</p> <p>7. 非鉄金属材料</p> <p>8. 非金属材料</p>				
	期	<p>(達成目標)</p> <p>1. 機械工作について機械材料の加工性や工作法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>2. 機械工作に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付ける。</p> <p>3. 工業生産における適切な機械材料の加工や工作する力の向上を目指して自ら学び、情報技術や環境技術を活用した製造に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。</p>				

第 二 学 期	<p>第二学期授業時数計＜ 3 2 ＞</p> <p>9. 鋳造</p> <p>10. 鋳造法と鋳型</p> <p>11. 鋳物材料の溶解</p> <p>12. 溶接・接合</p> <p>13. 溶接</p> <p>14. 接合</p> <p>15. 塑性加工</p> <p>16. 素材加工</p> <p>17. 成型加工</p> <p>18. 切削加工</p> <p>19. 切削による加工</p> <p>20. フライスによる加工</p> <p>21. 穴あけ</p> <p>22. その他の切削加工</p> <p>23. 切削工具</p> <p>24. 切削加工の効率化</p> <p>25. 砥粒加工</p> <p>26. 研磨加工</p> <p>27. 特殊加工と表面処理</p> <p>28. 特殊加工</p> <p>29. 表面処理</p> <p>30. 生産の自動化</p> <p>31. 数値制御工作機械</p> <p>32. 産業用ロボット</p> <p>33. 工場の自動化</p>
	<p>(達成目標)</p> <p>1. 機械工作について機械材料の加工性や工作法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>2. 機械工作に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付ける。</p> <p>3. 工業生産における適切な機械材料の加工や工作する力の向上を目指して自ら学び、情報技術や環境技術を活用した製造に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。</p>
第 三 学 期	<p>第三学期授業時数計＜ 1 8 ＞</p> <p>35. 計測の基礎</p> <p>36. 実際の計測</p> <p>37. 生産管理</p> <p>38. 設計から生産まで</p> <p>39. 管理システム</p> <p>40. 環境と生産システム</p>

	<p>(達成目標)</p> <p>1. 機械工作について機械材料の加工性や工作法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>2. 機械工作に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付ける。</p> <p>3. 工業生産における適切な機械材料の加工や工作する力の向上を目指して自ら学び、情報技術や環境技術を活用した製造に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。</p>
評価方法	<p>以下に示す点を基準にして、生徒の状況を総合的に判断して評価する。</p> <p>1. 出欠の状況 2. 授業中の態度 3. 提出物の内容および提出状況</p> <p>4. 目標への到達度 5. 興味・関心の程度</p>
教科書	新機械工作（実教出版）
教材	

令和 6 年度 年間授業計画

東京都立北豊島工科高等学校 定時制課程

教科・科目名		学年	単位	総授業時数	必修・選択	教科担当者
機械製図		4	2	70	必修	阿部・潮田
指導目標	<p>機械要素の製図について基礎的な知識と技術を習得させ、課題研究などに応用できるようにする。</p> <p>機械要素の作図を通じて、機械製図の読み方、書き方を学ぶ。</p>					
授業内容	第 1 学期	<p>第一学期授業時数計＜18＞</p> <p>1. 立体図（等角図）から投影図 2. 投影図から立体図（等角図）</p> <p>3. 不足線の追記 4. 断面図（片側断面図）</p> <p>5. 補助投影図 6. 展開図</p> <p>7. 簡単な立体の投影図</p>				
	第 2 学期	<p>(達成目標)</p> <p>立体図から投影図、投影図から立体図に正しく書き表す事ができる基礎的な製図技術を習得する。</p> <p>不足線の追記、断面図（片側断面図）の考え方、作図の仕方を理解させる。</p> <p>補助投影図、展開図、簡単な立体の投影図を作図する為の基礎的な知識技術を習得する。</p>				
	第 2 学期	<p>第二学期授業時数計＜35＞</p> <p>8. 製作図のあらまし 9. 図形の表し方 10. 寸法記入法</p> <p>11. 公差・面の肌 12. 機械要素の製図（ボルト・ナット、軸・軸継手など）</p>				

		(達成目標) 製作図として図面に記入する必要な事項(寸法記入・面の肌・はめあいなど)を知り、製作図作成のための基礎的な知識技術と作図法についてJISとの関連を理解・習得させる。
第 三 学 期	第三学期授業時数計<17> 12.機械要素の製図(ボルト・ナット、軸・軸継手など)	(達成目標) 各種の機械要素は、JISに規格化されているものが多い。製作図に用いるときには規格に従って作図する必要がある、部品の形状や大きさなどを示すために間略図による図示法が規定されている。JISとの関連を理解させ基礎的な作図方法を習得させる。
評価方法	以下に示す点を基準にして、生徒の状況を総合的に判断して評価する。 1. 出欠の状況 2. 授業中の態度 3. 提出物の内容および提出状況 4. 目標への到達度 5. 興味・関心の程度	
教科書	機械製図(実教出版)	
教材	基礎製図検定問題集	

令和6年度 年間授業計画

東京都立北豊島工科高等学校 定時制課程

教科・科目名		学年	単位	総授業時数	必修・選択	教科担当者
数学・数学Ⅱ		4	2	70	必修	高木 俊哉
指導目標	問題演習を中心とし、生徒の活動の時間を多くとる授業を行い、課題を解決するために必要な思考力・判断力を身につけ、また、その学びに向かう態度を育ませる。また、毎時間、復習を取り入れ、基本的な知識・技能を身に付けさせる。					
授 業 内 容	第 一 学 期	第一学期授業時数計<26時間> 指数関数・・・13時間 対数関数・・・13時間 (達成目標) 指数関数の問題を解けるようにする。 対数関数の問題を解けるようにする。				
	第 二 学 期	第二学期授業時数計<30時間> 微分・・・8時間 導関数の応用・・・8時間 積分・・・14時間				
	学 校					

		(達成目標) 微分の計算ができるようになる。 導関数を用いてグラフの増減を理解しようとしている。 積分の計算ができるようになる。
	第 三 学 期	第三学期授業時数計< 17時間> 加法定理・・・17時間
		(達成目標) (達成目標) 加法定理を活用できるようにする。
評価 方法		出席状況・授業態度・定期考査・提出物等を総合的に判断して評価する。
教科書		実教出版 高校数学Ⅱ 新訂版
教材		教科書、プリント

令和6年度 年間授業計画

東京都立北豊島工科高等学校 定時制課程

教科・科目名		学年	単位	総授業時数	必修・選択	教科担当者
体育		4	2	70	必修	鈴木 悠太
指導 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理的・計画的な実践を通して知識を深め、かつ技能を高めることで運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる能力の育成 ・自己の状況に応じて体力の向上を図ることができる能力の育成 ・公正・協力・責任・参画などに対する意欲の育成 ・健康・安全を確保して生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成 					
授 業 内 容	第 一 学 期	第一学期授業時数計< 24時間> 1 体づくり運動・・・8時間 2 陸上競技・・・6時間 3 種目選択「球技 ネット型」・・・8時間 4 体育理論・・・2時間				
		(達成目標) 各種基礎的スキルを習得し勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じたスキルを高める。運動やスポーツの効果的な学習方法を習得する。豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。				
	第 二 学 期	第二学期授業時数計< 28時間> 5 種目選択「球技 ネット型」・・・10時間 6 種目選択「球技 ゴール型」・・・18時間				

		(達成目標) 各種目特有の技術・技能を高め、課題解決の方法を理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。
	第三学期	第三学期授業時数計<18時間> 7 種目選択「球技 ゴール型」・・・14時間 8 体育理論・・・4時間 (達成目標) 基本的技能を習得し勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能を高める。ルールやマナーを理解して公正・協力・責任などの社会的態度を養う。豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。
評価方法		運動や健康・安全への関心及び意欲、態度(授業態度、出欠状況等)、運動や健康・安全についての思考・判断(グループ学習、ワークシート等)、運動の技能(実技テスト、技能の記録等)、運動や健康・安全についての知識・理解(グループ学習、ワークシート等)4観点で総合的に評価する。
教科書		大修館 現代高等保健体育
教材		教科書、プリント、映像教材等

令和6年度 年間授業計画

東京都立北豊島工科高等学校 定時制課程

教科・科目名		学年	単位	総授業時数	必修・選択	教科担当者
日本史A		4	2	70	必修	門脇 卓也
指導目標	近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連づけながら理解させる。 人類の課題を多角的に考察させる。 基本的な事項を精選して指導内容を構成する。 単に知識を与えるだけでなく、現代の世界が当面する課題について考察させる。					
授業内容	第一期	第一学期授業時数計<28時間> 私たちの時代と歴史・・・7時間 開国までのあゆみ・国際情勢の変化と明治維新 世界と東アジア・・・7時間 明治新政府の諸改革と立憲国家の成立・・・7時間 日清・日露戦争・・・7時間 (達成目標) 前近代の終末の状況を理解する。 近代のはじまりの状況を具体的にとらえ、わが国の近代国家の形成を理解する。				

	第二学期	第二学期授業時数計＜32時間＞ 第一次世界大戦と帝国日本の形成・・・6時間 政党政治の時代・・・6時間 軍国日本への道・・・7時間 太平洋戦争・・・7時間 現代世界の開幕と日本の戦後改革・・・6時間
		(達成目標) 国家主義の台頭を中心に第2次世界大戦前のわが国の状況を理解する。 第2次世界大戦の状況をよく理解する。 戦後の新しい国づくりと経済復興の状況を理解する。
	第三学期	第三学期授業時数計＜10時間＞ 高度経済成長の時代・・・5時間 経済大国としての日本と冷戦の終焉・・・5時間
		(達成目標) 高度経済成長期から先進工業立国へと進んでいったことを確認する。 わが国の国際社会での地位を、世界平和を中心に理解する。
評価方法	授業中に作成するワークシート、定期考査、課題レポートや平常点などを総合して評価する。	
教科書	東京書籍 新日本史A 現代からの歴史	
教材		

令和6年度 年間授業計画

東京都立北豊島工科高等学校 定時制課程

教科・科目名		学年	単位	総授業時数	必修・選択	教科担当者
物理基礎		4	2	70	必修	今武 顕
指導目標	物理学の基本法則について学び、その基礎となる術語を理解し、身の回りにある物理現象が、それにし たがっているのを理解する。					
授業 内	第一 学期	第一学期授業時数計＜28時間＞ 1 力学・・・28時間 a 「力」とは何か b ニュートンの運動の法則				
		(達成目標)「速度」、「加速度」、「力」などの物理学の基礎概念を学ぶ。また、それらを使った基 礎的な問題を解けるようにする。				

	第 二 学 期	<p>第二学期授業時数計＜ 3 2 時間＞</p> <p>2 「仕事」と「エネルギー」・・・ 1 2 時間</p> <p>3 「電気」・・・ 1 0 時間</p> <p>4 「波動」・・・ 1 0 時間</p>
		<p>（達成目標）「仕事」、「熱」、「波」などの基礎知識を学ぶ。また、電気のはたらきとオームの法則を理解させ、回路の基礎知識を身に着けさせる。</p>
	第 三 学 期	<p>第三学期授業時数計＜ 1 0 時間＞</p> <p>5 「エネルギー」・・・ 1 0 時間</p> <p>エネルギーの変換</p>
		<p>（達成目標）エネルギーはさまざまな形に変換することを学ぶ。また、人類にとって貴重なエネルギーを有効利用する技術について理解をふかめる。</p>
評価 方法	<p>定期考査に平常点を加味して総合的に評価する。</p>	
教科 書	<p>東京書籍 改訂 新編物理基礎</p>	
教材		